

第101回 全国高校野球選手権大会

全国高校野球選手権大会第7日の12日、青森県代表の八学光星と、奈良県代表の智弁学園が2回戦で対戦する。光星の仲井宗基監督と、智弁学園の小坂

将^{まさあき}監督に警戒する選手、勝負のポイントなどを聞いた。

（聞き手・林泰輔、写真・大粒来仁）

光星 12日智弁学園と2回戦

両監督 かく戦う



八学光星・仲井監督 失点最小限に

2回戦へ向けて意気込みを語る八学光星の仲井宗基監督＝9日、大阪府豊中市

―相手の印象は。
奈良大会から打線が活発。伝統があり、積極的な野球をするが、緻密さもあふ素晴らしいチーム。
―鍵を握る選手は。
一番の武岡（龍世）を中心に、中軸が活躍してくれば、ただ、簡単にそうはならないので、チーム全員が、それぞれの役割を果たすことに期待している。
―警戒する相手選手は。
一番の塚本（大夢）君、3番の坂下（翔馬）君が要

注意。特に坂下君は小柄ながらパンチ力があり、攻守の要となっている。
―試合のポイントは。
智弁学園は奈良大会で12本塁打で、両チームとも強打。一方で両チームとも失点に気になる。攻撃陣が取れるところでしっかり得点し、失点は覚悟しつつも、防げるところを防ぐこと。
―投手陣に求めることは。
四球をなるべく与えないこと。打たれた後も重要。失点しても必ずすると後を引かないようにし、最少失点でとどめてほしい。